

いぬやまいせき
14. 犬山遺跡

所在地:大野市犬山

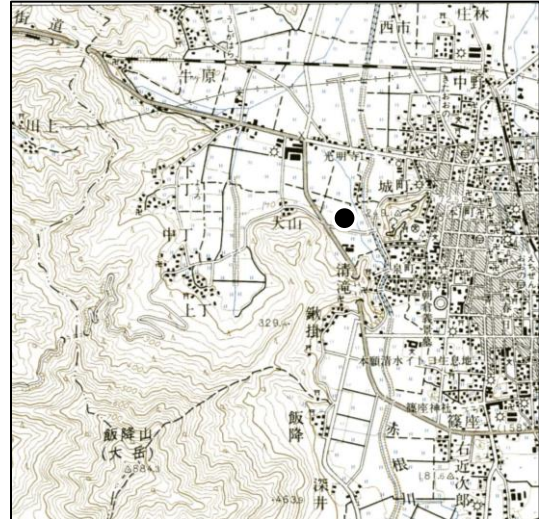
調査原因:一般国道 476 号道路改良事業

調査期間:平成 28 年 4 月 1 日～6 月 30 日

調査主体:福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積:1,000 m²

時期:縄文晩期、弥生後期



位置図 (S=1/50,000)

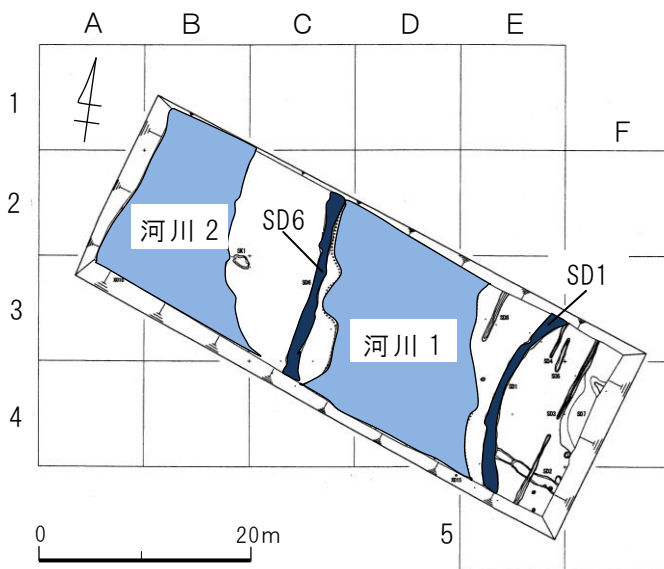
調査の概要 犬山遺跡は、大野市犬山集落の南西に広がる水田地帯にあり、大野城下の西側にあります。本遺跡は平成 5 年度にも調査を実施し、掘立柱建物（中世）や小穴、溝、河川が見つかり、縄文時代晩期（約 2,800 年前）、弥生時代後期～古墳時代前期（約 1,800～1,700 年前）の土器が見つっています。

遺構 今回の調査は、南北 20m、東西 50m の 1,000 m² の面積を対象に実施しました（第 1 図）。検出した主な遺構は、河川 2 条、溝 2 条 (SD1・6) です（写真 4）。

河川 1 は、幅約 10m、最深約 60 cm の規模を測り、弥生時代後期に埋まったものと考えます。河川 1 中央部底面には腐植した植物を含む層が堆積していました。また、河川 1 の底面であった土層からは縄文時代晩期の土器が出土しました。

河川 2 も河川 1 とほぼ同様な状況でしたが、腐植した植物の層は堆積していなかったため、河川 1 より後の時期に埋まったのではないかと考えています。

溝は、SD1・6 とともに幅 1m、深さ約 20 cm であり、底面付近の砂層中から弥生時代後期の土器が小片で出土しました（写真 1）。



第 1 図 調査区全体図

遺物 遺物は、弥生時代後期の土器が最も多く、縄文時代晩期の土器がこれに次ぐ出土量です。

土器のほかに磨石や打製石斧などの石製品も出土しており、これらは縄文時代晩期に位置づけることができます。

まとめ 以上の結果、調査地点は遺物の出土量が希薄であったことを踏まえると、集落域の縁辺部に相当し、集落の中心は、現在の犬山集落とほぼ重複すると考えます。

(三原翔吾)



写真1 溝 SD6(南西から)



写真2 河川1 調査状況(北西から)



写真3 河川1(北から)

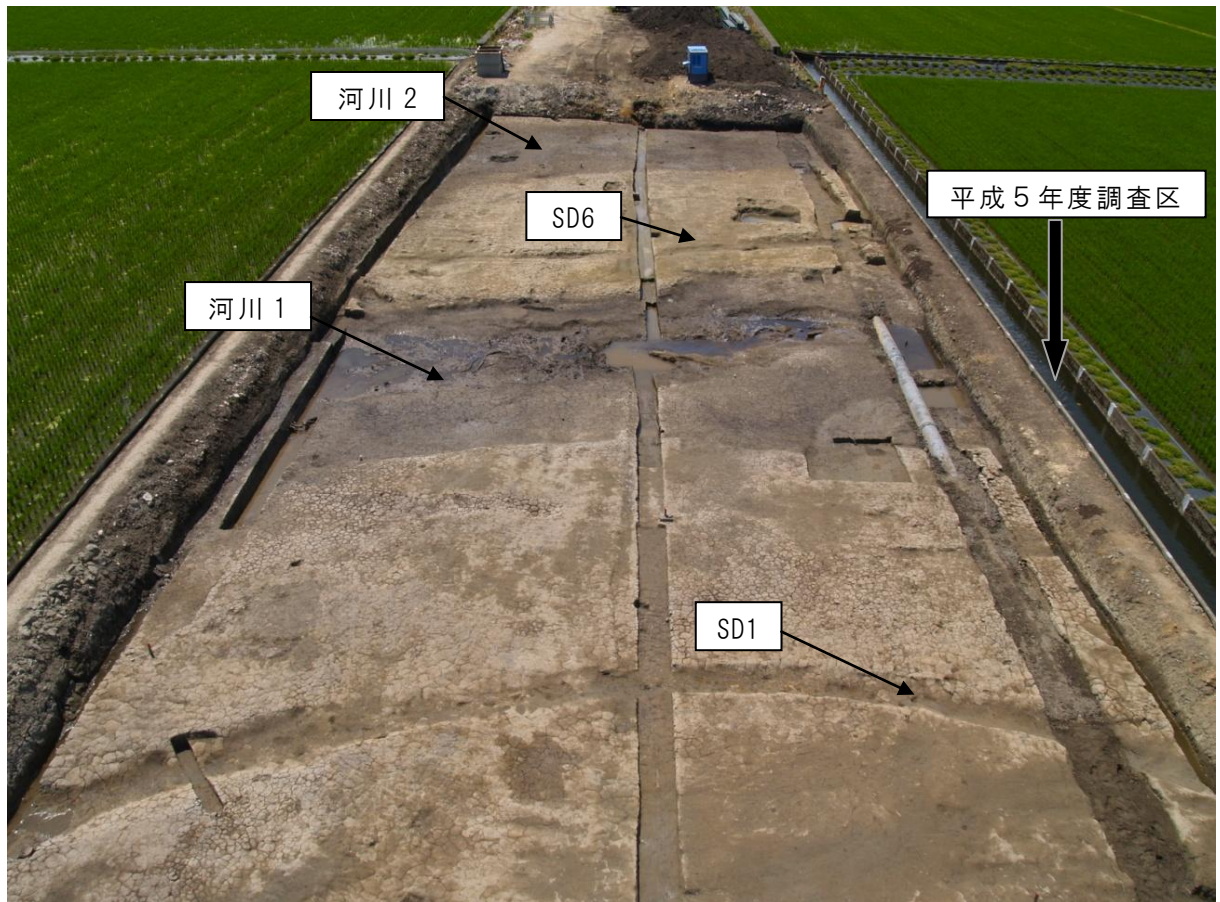


写真4 調査区全景(南東から)